

◆ 目 次 ◆

1. 【国際】 The deepening of interdependence among nations	4
2. 【生活】 A comparison between reading and viewing television	15
3. 【言語】 The best time to learn a foreign language	26
4. 【物語】 An unbelievable incident	37
5. 【生活】 Teenagers' sleep	47
6. 【科学】 The brain hemispheres	57
7. 【倫理】 The pursuit of happiness	68
8. 【言語】 To become a good speaker	78
9. 【教育】 The education system in Finland	90
10. 【生活】 The effect of sleep and dreams on memory	102
11. 【環境】 A "Lights Down" campaign	112
Coffee Break	120
12. 【交友】 The issue of friendship	126
13. 【経済】 Fairtrade	134
14. 【言語】 Your choice of dictionary	141
15. 【生物】 The secret of survival	155
類語チェック 確認リスト	170

■NOTICE

- cf. …参照。
= …同義の語句・言い換えを示す。
⇒ …反義の語句を示す。
() …省略可能を示す。
[] …前の語句との言い換え可能を示す。

相互依存の深化

解説

1. Since the late 1970s 「1970年代後半以来」

since は現在または話題の時点までを含む状態・動作の起点を表し、通常完了時制とともに用いる。from にはこのような制約がないため、様々な時制とともに用いる。

the 1970s = the 1970's 「1970年代」年号に's がつくと「年代」の意味になる。's は数字・文字などに付いて複数形を作る。five K's 「K が5つ」。なお、'(アポストロフィ) は省略可能である。

1. increasingly 「ますます、いよいよ」 = more and more

2. interdependent 「相互依存の」

inter 「～間の、相互の～」 + dependent 「頼っている、依存している」
be dependent on 「～に頼っている」 ⇔ be independent of 「～から独立している」

◆ 類語チェック 1 ◆

first of all, in the first place, to begin with 「まず第一に」

2. the amount and speed of economic exchange 「経済交流の量とスピード」

amount 「量」 = quantity ⇔ quality 「質」

3. economic 「経済の、経済上の」は形容詞。economic の名詞形は economy。なお、economy の形容詞形にもう1つ economical があり、「経済的な、むだのない」の意味。

◆ 類語チェック 2 ◆

increase, add to 「増やす、増大する」 ⇔ reduce, diminish, lessen, decrease 「減らす、減少する」

4. dramatically 「劇的に、めざましく」

where は関係副詞。英文の流れとしては ~ a global economy where (= and there) → ~ a global economy and in the global economy 「これはグローバル・エコノミーを作り上げている。(そして) グローバル・エコノミー(の分野では) ~」と読み進めていくことになる。なお、本文では上記からもわかるように where = in which で表せる。

5. technological advances in communication 「通信の技術的進歩」

advance in ~ 「～の進歩、～の向上」

communication 「通信機関〔手段〕」 = correspondence

6. fundamentally 「根本的に、基本的に」 = basically

6. the way we interact with the rest of the world 「私たちが世界の他の地域と交信する方法」

interact with ~ 「～と相互に作用する」

interact = inter 「～間の、相互の～」 + act 「行動する」

the rest of ~ 「～の残り、残りの～」

the way (in which [that]) we interact with the rest of the world の () 内が省略されている。the way how のように、関係副詞 how の先行詞として the way は用いられるが、実際には、the way how としては用いられず、the way あるいは how のいずれか片方のみを使用する。

7. mutual 「相互の」

8. to the extent that ~ 「～の程度まで、～の範囲まで」

◆ 類語チェック 3 ◆

tend to (do), have a tendency to (do), be inclined to (do), have an inclination to (do), be apt to (do), be likely to (do), be prone to (do), be liable to (do) 「～しがちである、～する傾向がある」

9. as if we were living in one global village 「まるで私たちが1つの地球村に住んでいるかのように」

as if ~ 「まるで～であるかのように」 = as though ~

as if の後には、仮定法が続く。本文では we were living ~ と過去形になっているから、現在の事実と反対の内容を表す。現在の事実は、we are not living in one global village である。現在に関する記述だから、「まるで私たちが1つの地球村に住んでいたかのように」と訳出しないこと。

◆ 類語チェック 4 ◆

finally, ultimately, eventually, at last, after all, at length, in the end, in the long run 「最後に、ついに」

10. Finally, ~ and regions. の文の主語は progress で「無生物主語」構文になっている。「無生物主語」構文を日本語に直すときは、無生物主語を副詞的に、目的語(人の場合が多い)を主語に置き換えて訳すと、日本語らしくなる。'

10. the progress in transportation 「交通機関の進歩」

the progress in ~ 「～における進歩」

progress の後の前置詞は〈分野・限定・範囲〉を表す in になることに注意。

10. more and more people 「ますます多くの人々」

more は many [much] の比較級。

「比較級 + and + 比較級 + ~」は、「ますます(だんだん) ~ (←原級の単語の持

つ意味) の…」という意味になる。

The climate is becoming warmer and warmer. 「気候がますます暖かくなっている。」

11. **For many living in developed nations** 「先進国に住んでいる多くの人たちにとって」

many living in developed nations = many who live in developed nations
「現在分詞 (~ing) = 関係代名詞 + 一般動詞」のルールが適用されている。
developed nations 「先進国」

12. **traveling abroad is no longer a luxury to enjoy** 「海外旅行はもはやぜいたくな楽しみではない」

traveling は動名詞で「旅行すること」, abroad は副詞で「外国に」の意味で, travel (ing) を修飾する。副詞は動詞や形容詞や他の副詞を修飾する。「外国に旅行すること → 海外旅行」。traveling はこの文の主語に相当する。主語になれるのは名詞相当語句のみなので, traveling は名詞の働きをしている。また, 意味は「旅行すること」で動詞の働きをしている。このように, 動名詞 Gerund は「形は名詞, 意味は動詞の働きをする」ので, 動名詞と名づけられた。

12. **no longer** ~ 「もはや~でない」

これと同義の表現は, 他に no more がある。no longer は懐古的で過去に視点を置いた表現, no more は前途的表現で未来に視点を置いた表現と言われている。

14. **note** 「注目する, 書き留める」

なお名詞形も note だが, 意味は「短い手紙, 覚え書き, メモ」。日本語の「ノート」に当たる英語は notebook。memo は「業務連絡票」の意味なので, 混同しないこと。

14. **deepening** は動詞 deepen 「深くする」の動名詞形「深くすること」で, 主語の働きをしている。ただし, 定冠詞 the がついていることから, 名詞化しており, 「深まり, 深化」の意味。

15. **not only common values and interests but also common problems**

= common problems in addition to [besides] common values and interests
「共通の価値観や関心事だけでなく, 共通の問題も」

not only A but also B = B in addition to A = B besides A = B on top of A
「A だけでなく B も, A に加えて B も」

16. **respect** 「留意する, 尊敬する, 尊重する」

名詞も respect。本文は, 「国境に留意しない → 国境とは関係がない」。なお, respect から形容詞が 3 個派生する。3 個を識別できるかを試す問題は, 入試頻出である。

respectable 「まともな, かなりの」 respectful 「丁重な, うやうやしい」

respective 「それぞれの」 ⇔ irrespective

irrespective of ~ 「~に関係なく, ~に関わりなく」 = regardless of ~

17. **against** 「~を背景にして」 **background** 「背景, 背後の事情」

against this background この副詞句には, 似た意味を持つ against と background とが重複して用いられている。

17. **term** 「用語, 言い回し」

term は「期間」「学期」「条件」などさまざまな意味を持つ多義語である。

I am on speaking terms with her. 「私は, 彼女とは言葉を交わす仲である。」
We must judge the new project in terms of cost.

「私たちは経費の点から, その新事業を判断しなければならない。」

18. コロン (:) は前の表現を説明するために具体例を挙げたり, 要約したりするのに用いられる。本文では, a new term 「新語」の具体例として, Global Issues 「グローバルな問題」が挙げられている。a new term と Global Issues は『同格』。

18. **issue** 名詞で「問題」という意味で用いられている。他に「発行」「出版物」「結果」などの意味がある。

18. **when viewed more broadly** 「視野をさらに広げてみると」

when (it [= the term Global Issues] is) viewed more broadly の () 内が「副詞節中の主語と be 動詞は省略できる」というルールが適用され, 省略されている。view 「考察する, 調べる」。第 3 段落の view は名詞として「見解, 見方」の意味で用いられている。

18. **the term Global Issues** 「グローバルな問題という用語」

the term と Global Issues は『同格』の関係。2 つの語句の間に同格を表す前置詞の of 「~という」を入れてもいい。

19. **more than just a catchphrase** 「ただのキャッチフレーズではない」

more than ~ 「~以上の, ~では足りない」この語句には, 否定のニュアンスが含まれるので, この後の but と相関させ「~ではなく…」と和訳するといい。つまり, not A but B 「A ではなく B」構文のように訳すと, 日本語が滑らかになる。

just = only, simply, merely 「単に」 catchphrase 「キャッチフレーズ, うたい文句」

19. **a shift in perspective** 「物の見方の変化」

shift = change 「変化」 shift も change も「~の変化」という表現は, shift in ~, change in ~ のように前置詞の in を伴う。

21. **basically** = fundamentally 「基本的に (は)」
21. **two different views on Global Issues** 「グローバルな問題に関する 2つの異なる見解」
on は「～に関する、～について」の意味で、about よりも専門的・学術的な内容であることを示唆するニュアンスがある。
22. **that we will overcome the current problems** 「私たちは現在の問題を克服するだろうということ」
that 以下は believe の目的語になる名詞節。
22. **overcome** 「～を克服する、～に打ち勝つ」 = get over, recover from
23. **coupled with increased international cooperation among countries** 「増大する国同士の国際的な協力とあいまって」
future progress in science and technology, (which is) coupled with increased international cooperation among countries の () 内が「関係代名詞 + be 動詞は省略できる」というルールにのっとり省略されている。coupled という過去分詞が、progress という名詞を後置修飾している形になっている。which の先行詞は (future) progress (in science and technology)。「科学と技術における未来の進歩が、増大する国同士の国際的な協力と連結されると」という内容である。couple A with B「A を B とつなぐ」で、A = future progress in science and technology B = increased international cooperation among countries で、受け身の形となっている。increased は increase の過去分詞（形容詞と考えてもいい）で cooperation を修飾している。
25. **Thus** = In this way 「このように」
25. **for them** の **them** は optimists を指している。
25. **hope for** ~ 「～への希望」
hope は名詞も動詞もある。動詞で用いるときの用法では、
- I hope that you will succeed.
 - I hope for your success.
 - I hope you to succeed.
- hope + 目的語 + to (do) の形にならないことに注意。
26. **the picture looks (to be) very different** 「その像はかなり違って見える」
() 内が省略されている。
26. **Such issues ~ quite dark.** これだけで 1 文である。文全体の構造の骨組みは Such issues have forced pessimists to argue that ~ である。force + ~ (= 目的語) + to (do) は「～に…することを強制する、～に無理やり…させる」の意味。「このような問題は、悲観主義者たちに主張することを強制している」が直訳だが、主語が Such issues の「無生物主語」構文である。無生物主語は副詞的に訳し、目的語(通例、人)を主語にして考えると日本語らしくなるので、Because of such issues, pessimists have been forced to argue that ~ 「このような問題によって、悲観主義者たちは、～と主張せざるをえない」と工夫すること。

26. **such A as B** = A such as B 「B のような A」
A = issues, B = global warming, food shortages, and natural disasters
global warming 「地球温暖化」 food shortages 「食糧不足」
natural disasters 「自然災害」
この 3 つの語句は、近年の時事用語としてよく用いられるので、日本語の意味はもちろん、英語でも表現できるようにしておこう。
- ◆ 類語チェック 5 ◆
disaster, catastrophe, calamity 「災害」
- ◆ 類語チェック 6 ◆
be forced to (do), be obliged to (do), be compelled to (do) 「～することを強制される」
- ◆ 類語チェック 7 ◆
argue, discuss, debate 「主張する、論じる、議論する」
28. **if it were not for fundamental shifts in our way of thinking, the fate of our planet would be quite dark** 「もしも私たちの物の考え方を根本的に変えなければ、地球の運命は極めて暗いものになるだろう」
仮定法過去になっている。仮定法過去は「現在の事実と反対の内容を表す」表現方法で、従属節の if 節が過去形、主節が「助動詞の過去形 + 動詞の原形」の形となる。
if it were not for ~ は「もし～がなければ」、if it had not been for ~ は「もし～がなかったならば」の意味になる。次の例文で、違いを理解してほしい。
As you help me, I can finish the work. 「現在の事実」
→ If it were not for your help, I could not finish the work. 「仮定法過去」
As you helped me, I could finish the work. 「過去の事実」
→ If it had not been for your help, I could not have finished the work. 「仮定法過去完了」
if 節が『過去完了形 = had + 過去分詞』、主節が『助動詞の過去形 + have + 過去分詞』が「仮定法過去完了」の形である。
「もし～がなければ」は、
If it were not for ~, But for ~, Without ~, Were it not for ~
「もし～がなかったならば」は、

If it had not been for ~, But for ~, Without ~, Had it not been for ~

29. **fate** 「運命, 宿命」 = destiny 形容詞は fatal 「致命的な」
30. **in contrast to** ~ 「~と対照的に, ~と比較して」の意味のイディオム。
30. **pessimists believe that** ~
that 以下は believe の目的語になる名詞節。同じ第3段落に Optimists tend to believe that ~ という類似の表現を用いて、楽観主義者の見解が述べられている。文字通り、楽観主義者の見解と悲観主義者の見解が対照的に描写されている。
31. **global issues are so serious that we must fundamentally change our current lifestyle** 「グローバルな問題はとても深刻なので、私たちは今の生活様式を根本的に変えなければならない」
so ~ that ... 「とても～なので…, …なほど～」構文が用いられている。
global issues are so serious that we must change our current lifestyle
= global issues are serious enough for us to have to change our current lifestyle
33. **It** は形式主語で to decide ~ を指している。
33. **be up to** ~ は本文では「～の責任である, ～の義務である」の意味。
34. **from the historical point of view** 「歴史的観点から判断すれば」
from は〈観点・根拠・規準〉を示し「～から判断すれば, ～に基づいて」の意味。from = judging from で judging from は独立分詞構文。独立分詞構文は、他に strictly speaking 「厳密に言うと」 frankly speaking 「率直に言うと」などがある。それぞれ、との表現は if we [you/they] strictly speak, if we [you/they] frankly speak である。
34. **one thing I can assure you is that the rising attention to Global Issues represents a paradox.**
文全体の主語は one thing, それを受けける動詞は is, that 以下は「～ということ」の意味の補語になる名詞節。節とは、主語と動詞がある1つのまとまりだから, that 以下の主語は attention, 動詞は represents であることを見抜くことが必要である。
one thing (that) I can assure you で関係代名詞目的格の that が省略されている。I can assure you one thing 「私はあなたたちに1つのことを探証する」の関係が成り立つ。ただし, assure は目的語を2つ従える動詞ではないので、正式には assure + 〈人〉 + of + 名詞と覚えよう。I assure you of its truth. = I assure you that it is true. 「私はそれが真実であることを保証します。」
35. **assure** 「保証する, 請け合う」 = ascertain
35. **rising attention** 「高まる関心」

rising は自動詞 rise 「上がる, 升る」の現在分詞（形容詞の働きをする）で名詞 attention を修飾する。他動詞 raise 「上げる, 高める」と混同しないこと。

◆ 類語チェック 8 ◆

represent, mean, signify, symbolize, stand for 「象徴する, 代表する, 描く」

36. **paradox** 「逆説（一見不合理のように見えるが、実は鋭く真理をついている言説）」
36. **The existence of Global Issues itself** は、逐語訳だと「グローバルな問題自体の存在」になるが、of は《主格》を表すので、「グローバルな問題自体が存在すること」と訳すと、自然な日本語になる。「英語は名詞中心、日本語は動詞中心」ということを時には思い出して英文読解に取り組んでほしい。
A of B だと「B の A」と訳せばいいわけだが、日本語の「～の」と同様に of の働きは次のように様々である。

《主格》the love of a mother for her children 「子どもたちへの母の愛」

→ a mother loves her children という関係、「母が子どもたちを愛すること」

《所有格》this car of Akita's 「秋田さんのこの車」 → 「秋田さんが所有しているこの車」

《目的格》the education of my son

「私の息子の教育」 → 「私の息子を教育すること」

37. **traditional** 「伝統的な, 債習に従った」 = conventional

38. **cannot** と **without** の2つの否定語が用いられている『二重否定』構文である。
二重否定は肯定の意味を表すので、「私たちがこれらの問題を解決できるときはいつでも、過去の経験を振り返ることになる。」と訳しても構わない。

They never meet without quarrelling.

= Whenever they meet, they quarrel. 「彼らは会うといつでも口げんかをする。」

◆ 類語チェック 9 ◆

solve, resolve, work out, come up with, settle 「解決する」

◆ 類語チェック 10 ◆

look back on ~, remember, recollect, recall 「～を振り返る, ～を回想する」

◆ 類語チェック 11 ◆

indicate, show, point out 「示す, 指摘する」

39. **the importance of rediscovering** of の用法は《主格》。

the importance of rediscovering = rediscovering is important

40. **rediscover** 「～を再発見する」の目的語は the valuable lessons of the past
40. **in order to cope with these newly emerging problems** 「これらの新たに発生している問題に対処するために」

in order to (do) = so as to (do) = to (do) 「～するために」

不定詞の副詞的用法で〈目的〉を表す。節で表すと次のようになる。

so that we can [may] cope with these newly emerging problems

◆ 類語チェック 12 ◆

cope with ~, do with ~, deal with ~, treat, handle 「～に対処する, ～を扱う」

41. **newly** 「新たに, 近ごろ」の意味の副詞で現在分詞 emerging を修飾している。「副詞は, 動詞・形容詞・他の副詞を修飾する」ので, newly は動詞 emerge を修飾し, その動詞 emerge に～ing 形がついて現在分詞になっている。現在分詞「～している」は, 形容詞の働きをするので, emerging は名詞 problems を修飾している。「現在分詞・過去分詞は意味は動詞, 形は形容詞の働き」をする。進行形は「be 動詞 + 現在分詞」, 受動態は「be 動詞 + 過去分詞」の形。

◆ 類語チェック 13 ◆

emerge, appear, turn [show] up, come out 「発生する, 浮かび上がる」 ⇌ **disappear, vanish** 「消える」

41. If we do this の do this は前の文の内容である「グローバルな問題を解決するために, 過去の経験を振り返り, 過去の貴重な教訓を再発見すること」を指している。
42. **fellow** は名詞だが, 形容詞的に「仲間の, 同僚の」の意味で用いられている。
43. **inhabitant** 「住民, 生息動物」
動詞は inhabit 「住む」 = live, dwell
-ant は動詞について「～する人 (もの)」を表す。
assistant 「助手」 attendant 「係員」
inhabitant = inhabit + ant 「住む人 → 住民」
43. **secure** 「保証する, 安全にする, 確保する」の意味の他動詞。本文は受け身形になっている。

全 訳

1970年代後半以来, 世界はいくつかの点で, ますます相互依存するようになっている。まず第一に, さまざまな国同士の経済交流の量とスピードが劇的に増大してきている。これは, グローバル・エコノミーを作り上げ, そこでは貿易や金融が絶えず拡

大している。第二に, 通信の技術的進歩が, 私たちが世界の他の地域と交信する方法を根本的に変えてしまっている。(a)異なる社会や文化間の相互交流は, まるで私たちが1つの地球村に住んでいるかのように感じがちである程度まで, 増大してきている。最後に, 交通機関の進歩で, ますます多くの人々が他の国々や地域を訪れることができるようになっている。先進国に住んでいる多くの人たちにとって, 海外旅行はもはやぜいたくな楽しみではない。

国と国との相互依存性の深まりが, 共通の価値観や关心事だけでなく; 共通の問題も引き起こしているということに注目することが大切である。現代では,多くの問題は, 国境とは関係がない。これを背景にして, 「グローバルな問題」という1つの新語が作られている。実際に, 視野をさらに広げてみると, グローバルな問題という用語は, ただのキャッチフレーズではなく, 物の見方の変化なのである。

基本的にグローバルな問題に関する2つの異なった見解がある。楽観主義者たちは, 科学と技術における未来の進歩が, 増大する国同士の国際的な協力とあいまって, 私たちが現在の問題を克服するだろうと信じがちである。このように, 彼らにとって私たちの未来には希望がある。他方, 悲観主義者にとっては, その像はかなり違って見える。地球温暖化や食糧不足, 自然災害のような問題によって, 悲観主義者たちは, (c)もしも私たちの物の考え方を根本的に変えなければ, 地球の運命は極めて暗いものになるだろうと主張せざるをえない。楽観主義者たちの考え方とは対照的に, 悲観主義者たちは, グローバルな問題はとても深刻なので, 私たちは今の生活様式を根本的に変えなければならないと信じている。

グローバルな問題について自分の見方を決めるのは, 各自の責任である。しかし, 歴史的観点から, あなた方に保証できる1つのことは, グローバルな問題への高まる関心は1つの逆説を示しているということである。グローバルな問題それ自体は, 伝統的な物の見方の根本的な変革を求めている。他方で私たちは, 過去の経験を振り返ることなしにはこれらの問題を解決することができない。グローバルな問題という言葉は, これらの新たに発生している問題に対処するために, 過去の貴重な教訓を再発見することが重要であることを示しているようである。もし私たちがそうするならば, 私たちの惑星と, 実際そこに住むすべての私たちの仲間の未来は保証されるだろう。

Questions 解答

- ① 経済交流の量と速度が劇的に増大したこと (19字)
通信技術の進歩で交信方法が変わったこと (19字)